

III 笛吹市の学校教育の基本理念

1 基本的な考え方（理念）

■新しい笛吹市の教育を目指して

笛吹市は山梨県のほぼ中央に位置し、平成16年10月12日、石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村、春日居町の6町村が合併して誕生しました。そして平成18年8月1日に芦川村が加わり、今の新しい笛吹市になりました。人口はおよそ72,500人の中規模市です。



笛吹市の中心産業は農業であり、扇状地を利用した日本一の桃とぶどうの果樹栽培にあります。また全国的に有名な石和温泉郷は、昭和36年の温泉湧出以来発展を続け、観光客も多数訪れています。さらに甲府盆地を見下ろすこの地は、先人たちが文化を築いた跡である古墳や国衙、国分寺など、古くからの遺跡が多くあり、県の中心として栄えてきた歴史ある地です。



笛吹市では

『躍動する ふれあい文化都市』

— みんなで奏でるにぎわい・やすらぎ・きらめきのハーモニー — を掲げ、

『笛吹市第一次総合計画』の策定がなされ、将来像をしっかりと見据えた中で横のつながりをもちながら市の施策が進められています。

その中で教育分野におけるまちづくりの方向としての『個性輝く人々が育ち、活躍するまちづくり』を受け、具体的な目標として「子どもたちの個性を尊重する学校づくり」を掲げています。決まりある集団の中で認められ、輝いてこそ、生きてくるものが個性です。個性とわがままとはちがいます。子どもたちに本当の自分の良さを気づかせ、集団の中で存在感をもたせるよう努めています。



これまでの笛吹市の学校教育を振り返ってみると、その特徴は、市内の教職員が「生きてはたらく力」を身に付けた子どもの育成を目指して、長い間、組織的な教育研究を中心にして取り組んできている点にあります。私たちはこの貴重な財産を生かしながら、さらに本ビジョンの趣旨や具体的な施策を反映した、新しい笛吹市の教育を目指していきたいと考えます。

■ 「生きてはたらく力」を身に付けた子どもたちを

「生きてはたらく力」とは、社会や個人の生活をよりよくしていくために、学んだことを実生活に幅広く生かしていく力のことです。そしてこの力は、知育・德育・体育のバランスのとれた教育を通して培われるものです。笛吹市の子どもたちが、知識や技能を身に付け、健康で勤勉に働き、思いやりのある心をもって人と交わり、自他の幸福のために活躍する人に成長していってほしいという思いから、この「生きてはたらく力」を本ビジョンの基本目標のひとつとしました。

■ 家族や人を愛し、自然や郷土を大切にする子どもたちを

教育は「人づくり」であり、人は多くのかかわり合いの中で、自立した人間に育っていきます。子どもたちにとって一番身近な社会は、家庭であり、生活基盤である地域です。その中核を担っているのが家庭であることは言うまでもありませんが、「地域の子は地域で育てる」という考え方も、人づくりの大切な視点です。

子どもたちが家族や地域に温かく見守られ、健全に育てられていくことにより、子どもたちの中に、家族や人を愛し、笛吹市の自然や地域を大切に思う気持ちがはぐくまれていきます。そして将来にわたり、いつ、どこで生活していくよりも、家族や郷土を想い、大切にする心を忘れない人づくりができたらすばらしいことです。

子どもたちが、「笛吹市に生まれ、育ってよかった」と思えるような教育を構築していきたいと考え、「家族や人を愛し、自然や郷土を大切にする子どもの育成」を基本目標として掲げました。

※「生きる力」文部科学省

- ・基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力 = 「**確かな学力**」
- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を想いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力 など

2 目指す子ども像



私たちの暮らす笛吹市の魅力はなんと言っても、縁深い山々に囲まれた扇状地に流れる清流笛吹川、桃、ブドウをはじめとする果物や温泉など、自然の恵み豊かな地であることです。子どもたちは夢や目標に向かって輝き、人と人とのかかわり合いの中で磨かれ、響き合い、地域の歴史や文化、風土によって、個性輝く子どもたちに育てたいと考えました。

私たち大人は、子どもたちが「笛吹に生まれ、笛吹に育ってよかった」と思えるような教育をしていかなければなりません。やがて子どもたちは成長し、笛吹市の発展に貢献し、活躍していってくれるものと期待するものです。

3 基本目標

- 「生きてはたらく力」を身に付けた子どもの育成
- 家族や人を愛し、自然や郷土を大切にする子どもの育成

